

キャリアプロジェクト啓

Kei だより

2024

佐野東高校では、3年間を通して「キャリアプロジェクト啓」に取り組みます。

◆Kei 学年発表会 1・2月に、1・2年生全員が研究成果を8枚のスライドにまとめ、学年ごとに発表会を開催しました。

◇1年生「『好き』を起点にした取組」(2/14) 学校祭での中間発表や大学・企業訪問での経験を活かし、自身の『好き』を起点に課題を設定しました。オリンピックイヤーであった今年は世界に目を向け、自身の『好き』と掛け合わせた課題に取り組みました。「音楽」×「アフリカ」、「アニメ」×「アジア」等のテーマで調査・検証を行いました。



◇2年生「ゼミを起点に自身の興味関心につなげる取組」(1/17、31)

機械、自然科学、建築土木、電気電子、医療、栄養、こども、教育、まち、国際という10のゼミに分かれて、出前授業や実

地研修に取り組み、各自が自身の興味関心や進路に関連したテーマを設定し、研究を進めてきました。17日には2年生全員が今年度はじめてとなる体育館でのポスター発表を行いました。31日の発表は代表に選ばれた50名が発表しました。◇2年生の発表会には、高大連携協定を締結している足利大学、佐野日本大学短期大学、群馬パース大学、また佐野厚生総合病院の皆様、探究コーディネーターの今村亮先生にもご参観いただき、アドバイスをもらいました。1年生も先輩の研究を見学し、1年後の自分の姿を思い描きました。



◆Keiプロジェクト発表会(3/19)

各学年代表の11作品のステージ発表が行われました。個々が学年での発表をブラッシュアップし、プロトタイプ(試作品)を用いる等、個性あふれる発表に仕上げました。会場も盛り上がりを見せ、来賓の皆様からも高い評価をいただきました。

「キャリアプロジェクト啓」とは？

佐野東高校では、「キャリアプロジェクト啓」と称する探究型キャリア教育に取り組んでいます。生徒一人ひとりが自身の適性や興味関心に応じて、課題を設定し研究を重ねることで、キャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力の育成を目指しています。大学や企業等との連携や協働により、自ら設定した課題をより深めるとともに、社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を図ることをねらいとしています。特に「総合的な探究の時間」での一連の活動を“Kei”と呼び、3年間を通じて自分自身の進路に向き合います。

◆中村怜詞先生(島根大学教育センター准教授)、今村亮先生(桜美林大学高大連携コーディネーター)に講評をいただきました(3/19) 11作品それぞれに良い点や課題をご指摘いただきました。その中で、探究とは「身近な風景を変えていくこと」や、「自分なら何ができるかを考えること」といった言葉が印象的で、改めて探究の意義を学ぶ機会となりました。



Keiプロジェクト発表会テーマ一覧

【1年】

- ①「Kei プロって意味ある？
総合探究の必要性について」
- ②「電気ウナギについて」
- ③「筋肉！美容！脂肪を減らせる！長寿になれる！～体のつくりを変える習慣とは～」
- ④「なぜ？日本のアニメが海外に人気な理由とは！」
- ⑤「リズム感つけたい人！Come on !!」



【2年】

- ①「はやく登校したい！」
- ②「解熱鎮痛剤の吸収のされ方と副作用の発現について」
- ③「『見えない障害』について知ろう」
- ④「子どもたちが楽しく運動能力を上げられる遊具の提案」
- ⑤「祖父が家にやって来る～長く過ごしやすい家の工夫～」
- ⑥三菱みらい育成財団 高校生 MIRAI 万博予選通過「お菓子をいつでも食べられるようにしましょう」



◆**教員研修 (3/14, 19)** 本校は、探究に関する教員の資質向上にも力を入れています。数名の先生が、今年度県外の探究先進校に視察に出かけています。14日には、その報告会が行われ、Kei プロジェクトに取り入れられそうなプログラムや教員の体制等について学び合いました。また、19日の発表会後も、島根大学の中村怜詞先生より講話をいただきました。次年度もさらにパワーアップした体制でKei プロジェクトに取り組みます。

◆**大学等との意見交換会 (1/31)** 足利大学、佐野日本大学短期大学、群馬パース大学、佐野厚生総合病院の皆さま、探究コーディネーターの今村亮先生と今年度のKei プロジェクトの課題を整理し、いかにブラッシュアップをしていくかについて話し合う機会を設けました。本校の取組をご理解いただき、次年度も生徒の成長のためにご協力いただけるとお話をいただきました。Kei プロジェクトにより社会とつながり、社会を生きていく力を身につけられるよう生徒教職員共に、前進していきましょう！



Kei プロジェクト発表会 (3/19) にて

Kei 振り返りアンケート

Kei 学年発表会後に、1・2年生にアンケートを実施しました。1・2年生ともに、「自ら学び、行動することができるようになった」と回答した生徒が大半を占め、Kei プロジェクトをきっかけとして、何事に対しても次の一步を踏み出せる力が身についたことに喜びを感じます。

Kei プロジェクトを通して…	2年生		1年生	
	はい どちらかと 言えばはい	いいえ どちらかと 言えばいいえ	はい どちらかと 言えばはい	いいえ どちらかと 言えばいいえ
①自ら学び、行動することができるようになった	95.4%	4.6%	97.3%	2.8%
②人に気持ちを汲んで寄り添うことができるようになった	93.8%	6.2%	96.2%	3.9%
③地域社会の一員であることを認識することができるようになった	86.6%	13.4%	87.4%	12.6%
④社会の一員として地域社会の発展に貢献したいと考えるようになった	90.2%	9.8%	94.5%	5.5%
⑤自分自身の将来について考える機会が増えた	90.2%	9.8%	92.9%	7.1%
⑥自分の考えを発信することができるようになった	94.3%	5.7%	89.0%	11.0%
⑦Kei プロジェクトの活動に関して、自分は頑張ったと思う	92.3%	7.7%	96.2%	3.9%
⑧Kei プロジェクトの活動は楽しかった	83.4%	16.6%	90.1%	9.9%

【生徒の感想】(1年生) ●自分の好きな分野の探究をしたので、楽しく興味を持って取り組めたと思う。この先は、今回の問いをもっと奥深く解決できるように探究したいと感じた。●自分で調べていくと、テレビのニュースでも取り上げられないような小さな課題が見つかると感じた。●普段は考えないような社会の課題や、自分自身の悩みや課題等様々なことに目を向ける機会を得ることができた。また、それらを解決するためにはどうしたら良いかを考えられた。●普段目を向けることのないような事柄について考えることで自分の思考の幅を広げることができた。また、他者の発表を聞き自分では思いつかないような考え方などの意見も取り入れることができた。●自分が疑問に思ったことはだいたいインターネットなどで調べると簡単に答えが出てきてしまうので、もっと知識量を増やしたり、調べた情報から自分で考察したりして、疑問に深みをもたせたいと感じた。●自分が将来どんな仕事をしたいのか、そのためにどんなスキルが必要なのか改めて知ることができてよかった。文化祭の出し物について考えるときに、みんなが意見をたくさん出し合うことでよい出し物となった。協力することが大切なのだと感じた。●探究のテーマになるようなことが身の回りに溢れていると気づいた。自分がどこに視点を向けるかで大きな違いが出ると感じた。

(2年生) ●自分で様々な論文を探し読んで理解を深められた。論文それぞれ結果は同じところもあったが比べられるところもありメリットデメリットを探せた。問いで止めるだけでなくその先の考えを深めることができてよかった。●分からないことを自分で納得いくまで調べる大切さを学ぶことができたので、勉強や部活動など様々な場面で生かしていきたい。●何かを解決するためにはまず行動しないと始まらないと感じた(アンケートをしたり自分で調べたり実験したり)ので、行動に起こすことに重点を置いて活動・研究したい。●問題を発見する力を学んだと思うので、今後はそれを生かして、自分の将来に繋がる課題を見つけて、自分なりに解決方法を探して行きたい。●高校生の自分でも佐野市の一員として関わることができると感じた。また、市役所の方などの協力を得ることでアイデアを膨らませることができた。●課題を見つけて解決にむけて計画をたてるのは難しくこれから自分が生活していく中でも大切な力であるということ強く実感した。●様々な世代の人とどのように関わったらよいか、自分はどのような役割を果たすことができるかなどを考える時間になった。

～ 卒業生から在校生へ 3/18 合格体験発表後に話を聞きました！ ～

●Kei プロジェクトを通して、発表をした経験が一番役に立ちました。大学や社会に出てからも必要なスキルだと思うので、とても良かったです。研究を進める過程では、進学する学部の内容に近いことにも触れることができ、大学での勉強にも生かしていけると思います。入試の面接でも10分以上Kei プロジェクトで研究した内容について話しました。勉強や部活以外で自分から行動したこととして大いにアピールできたと思います。●発表の際にたくさんの大人からアドバイスをもらったことがとても良かったです。社会について考えるきっかけにもなり、社会を見る視点も変わりました。協調性や課題解決力などが身についたと思います。大学の合格にもつながったと思います。●人前で自分の意見を言うためには、様々な視点で調べておかなければならないこともあり、友人とも社会について意見を言い合ったり、語ったりすることもありました。Kei プロジェクトは大変でもありましたが、今後につながる活動だったと思います。

🗨️ **おわりに** ◆本プロジェクトは、多くの方々のご理解とご協力のもと成立しています。そして、多様な人との関わりが、生徒の成長にもつながっています。発表会の代表になった生徒たちが、大学等にもう一度足を運びたいと申し出てくれた時は、とてもうれしく感じました。このプロジェクトを経て、未来へ向けての一步を踏み出してくれることが何よりの喜びです。生徒一人一人が、輝かしい未来を啓く(ひらく)ことを願いながら今後も取り組んでいきます。◆今年度も本プロジェクトにご協力いただきました大学・企業・行政の皆様、保護者の皆様に感謝申し上げます。また、三菱みらい育成財団の助成により、人と人のつながりをさらに深めることができました。次年度も何卒よろしく願いいたします。(文責 早川)